

西村怪死事件とは

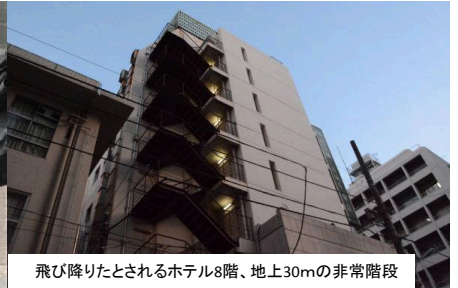
- ・動燃の総務部次長だった西村成生(しげお)さんが宿泊したとされるホテルの非常階段から飛び降りて自殺したとされた事件
- ・動燃・動力炉・核燃料開発事業団。現在の日本原子力研究開発機構。もんじゅなどの核燃料サイクル事業を行う国の特殊法人
- ・警察は、「センターホテル東京の非常階段下の路上に紺色の背広姿の男性が頭から血を流し、うつ伏せに倒れているのが見つかった」と発表。(読売新聞 夕刊)



故、西村成生さん(当時49歳)



妻、西村トシ子さん



飛び降りたとされるホテル8階、地上30mの非常階段

事件の経緯

年	月	日	時	分	出来事(公知の事実)	被告(動燃、都、警察)の言い分	原告(西村さん)の言い分	
1995	12	8	19	47	高速増殖炉もんじゅ、ナトリウム漏れ事故発生			
			9	2	ナトリウム漏れ現場をビデオ撮影	動燃はこの「2時ビデオ」をひたすらに隠し続けようとした。		
				16	2回目の現場ビデオ撮影(15分間)	これを1分間に編集して、事故ビデオとして公表		
			20		9日に公開したビデオは編集されていたことが発覚し、情報隠し問題が表面化した。			
			21		西村さんがビデオ隠しの社内調査の特命を大畑理事から受ける。			
			22		科学技術庁の強制調査で「2時ビデオ」の存在が露見。隠べい体質がマスコミによって糾弾された。			
			23		「2時ビデオ」が撮影直後に本社に届けられていたことが分り、所長、副所長らは隠べいで更迭。			
			25		「2時ビデオ」が12月9日から動燃本社に保管されていたことを調査チームがつかむ。			
1996	1	11	20		動燃が科学技術庁に「2時ビデオ」問題を報告、同時に大石理事長にも説明した。			
			12	16	00	中川科学技術庁長官が記者会見で2時ビデオは動燃本社に持ち帰られ本部の者が見ていると発言。		
				16	20	第1回記者会見 安藤理事は、2時ビデオの存在については「確認する」と回答を保留。		
				19	30	第2回記者会見 大石理事長が2時ビデオについて「昨日(11日)の夕方聞いた」と虚偽の報告		
				20	50	第3回記者会見 西村さんが「2時ビデオがあると分かったのは1月10日」と事実を曲げて発表。		
				22	~01		聖路加病院による死亡推定時刻	
			13	0	45	西村さんが大畑理事とチェックイン	ホテルはチェックイン情報の開示を拒否	
				1	30	動燃がホテルに会見議事録をFAX送信	FAX送信紙は現存しない	
				2	30	西村さんがフロントでFAXを受け取った		
				3	10	(遺書に作成時刻が付記されていた)	大石理事長宛遺書作成	始末書に書き加え遺書としたもの
				40		(遺書に作成時刻が付記されていた)	西村トシ子さん宛遺書作成	末尾に以上とあり、あまりにも事務的
				50		(遺書に作成時刻が付記されていた)	田嶋(理事長)秘書宛遺書作成	数字の筆跡鑑定では3通共本人とは異なる
				5	頃		警察の死体検案書に記載された死亡時刻(解剖、深部体温測定せずに断定)	
				5	55		大畑理事が803号室で遺書を発見し、「FAXがあるのを見た」と発表。	
				6	10		大畑理事が階段下の通路上で遺体を発見。	
				50			警察が駆け付け、救急車で聖路加病院へ搬送	
				7	頃		聖路加病院で深部体温測定(27°C)	
						遺族宅へ動燃から「西村さんは救急車で運ばれた」と、その後「死亡した」との連絡。		
						遺族は、動燃の手配したハイヤーで聖路加病院へ向かう。		
				10	55	霊安室で遺体の状況を確認、衣服は着衣せず白いシーツで覆われていた。	「頭に損傷もなく、軽度で不思議だった。」	
						遺書と遺品(財布、鍵、腕時計)を警察から、又、コートは警察ではない動燃職員から、鞆を大畑理事から手渡される。		
						監察医が死体検案書を作成。「軽度の死斑。硬直は頸と首。胸部と上下肢に骨折。死因は全身打撲、そして「即死」「自殺」と大石理事長が記者会見で遺書を読み上げたが、言葉を言い換えたり、途中を略したり、改ざんして発表した。		
						遺体を自宅に引き取る。		
						動燃の総務部長らが自宅内で遺体の運び込みを採配し、吊問客の入場をチェック。	インターホンが壊されていた。	
				15		遺族がささやかな葬儀として用意した小さな斎場を動燃の都合で勝手に変更し、「動燃葬」を大掛かりに執り行い、火葬した。		
						梶山官房長官、中川科技長官や、国会議員、警察官、電力会社から1500名が参列	「葬儀の盛大さに空恐ろしさを覚えた」	

安全配慮義務違反裁判

【自殺は雇用主としての安全配慮義務に違反したため、その損害賠償を求める】

2004	10	13	安全配慮義務違反での損害賠償	
2007	5	14	東京地裁で敗訴	
2009	10	29	東京高裁で敗訴。11月、上告・上告受理申立	
2012	1	31	上告棄却	

未返納遺品請求裁判

【FAX受信紙、マフラー、95どうねん手帳、背広、靴などの遺品の返却を求める。】

2015	2	13	未返還遺品請求を提訴		
2016	1	25	第4回口頭弁論	遺族が遺品の処分都合に合意した。 FAX受信紙の存在は明らかでない	
		10	12	現場に駆け付けた警察官の証人尋問 荒井係官(故人)が指揮し、他2名対応 荒井は「変死者は動燃関係者」と認識	トシさんは「それほうそだ」と主張。 法医学教室の鑑定では死亡時刻は、午前1時から3時の間 ・803号室に遺書があったが実況見分はしなかった。写真を撮影した記憶はない。 ・非常階段の踊り場、ホテル全景を撮影したが、遺体写真の撮影には答えず。 ・遺体写真は担架にうつ伏せに載せたのがあつた。現場の遺体写真はない。 ・落下地点の血痕や傷あと頭や背中への傷、靴や靴などの記憶がない。 ・遺品の目録を簿冊に書き、引き渡しの署名捺印の手続きをしたが記憶がない。
2017	1	16	結審		
		3	13	判決(予定)	

「夫は絶対に自殺する人ではない」

《西村トシ子さんの手記 新潮45 2005年3月号、他より》…動燃から反論は一切来ず。

- ① 一言で表せば素直、隠し事など出来ない。わいわい騒ぐのが好き。思い悩むタイプではなく自殺には違和感がある。
- ② 聖路加病院が保管していた頭部のレントゲン写真(正面、側面)では、頭蓋骨にも鎖骨にも頸椎にも骨折は見られない。
- ③ 遺書は、結婚を控えた長男や成人式が間もない次男のことに触れず、すんなりと受け入れられる内容ではない。
- ④ 動燃に説明を求めていたが、動燃から居酒屋に呼ばれ、渡された文書の誤字は、遺書の誤字と同じだった。
- ⑤ 警察からの遺体の状況やその写真、ホテル内の指紋や宿帳、FAXの存在等の説明に警察も絡んでいるのではと。
- ⑥ 西村さんは、もんじゅの担当になった時、家族に「我が家の誰かが殺されるかもしれない。気をつける」と話していた。

なぜ殺されたのか? その背景

《原告準備書面、他より》

- 1、西村さんは動燃に入社し、東海事業所に転勤後、本社に戻り文書課長。幹部の議事録等の極秘文書を自宅に保管。
  - 2、再度東海事業所で管理部長となり、梶山静六ら地元議員の選挙対策と職員の素行調査記録等の「裏」業務を担う。
  - 3、核武装を目論む日本の保守層やその利権の当事者である動燃にとって、ナトリウム漏れ事故は絶体絶命の危機。
  - 4、ビデオ隠しの調査を行う過程でもんじゅとその事故実状及びそれらの隠べい工作に関する裏情報を知ることになった。
- 動燃は知り過ぎてしまった西村さんは利用価値が低下したのみならず、重要情報が露出するかもしれない警戒の存在。

むすび

西村トシ子さんは「自殺したと発表した時から、原子力政策を司る者たちの芝居の幕が上がリ、」と述べています。

1月12日、村山内閣から橋本金権内閣に政権交代し官房長官は梶山静六。その夜西村さんが亡くなり、過熱報道は沈静した。これは単なる偶然か。



2002年7月聖路加病院から提示された損傷のない頭蓋骨写真